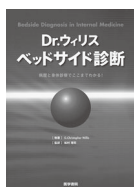


書評

● 伴 信太郎 (名大教授・総合診療部)

Dr. ウィリス ベッドサイド診断

病歴と身体診察でここまでわかる！



執筆：G. Christopher Willis
監訳：松村 理司

B5 頁 720 2008 年
定価 6,825 円 (本体 6,500 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-00033-8] 医学書院刊

ウィリス先生 (Dr. G. Christopher Willis) のご高名には、本書の監訳者である松村理司氏の興味深い逸話の紹介を通して 10 年以上前から接していた。そのウィリス先生が「医学生や若い医師に臨床診断を教えるために作ったノートをもとめたもの」(「」は著書からの引用) が本書である。ウィリス先生のことを少しでも知っている人 (評者のように直接お会いしたことはないが評判は聞いていたという人がおそらく多いと思う) にとっては、垂涎の書といってよい。

本書は、外来のテーブルにおいて症候に応じた鑑別診断を探したり、一冊を始めから終わりまで読み通したりするタイプの本ではない。一例をじっくり症例検討する時に、本書の関連箇所を開くと、ウィリス先生の「ほぼ 50 年に及ぶ臨床医と

しての経験が凝集されている」アドバイスに接することができる。少し時間的余裕がある時でないと読みこなせない深さがある。

本書を魅力ある書に仕上げているのは、訳者の並々ならぬ努力によるところも大きい。通称ウィリスノートを原本として日本語訳を終えた後にウィリス先生と連絡を取ったら、「先生が引退後も独りでコツコツと原稿の改訂作業を続けておられたことが判明したため、最終版の原稿を入手して翻訳を全面的にやり直した」という。さらには非常に詳しい脚注が付けてある。本文だけでは高度に過ぎる内容だが、この脚注のために本書が医学生や研修医にも役立つものとなっている。評者が知らなかった症候も、ほとんど脚注で補われていた。

「地位にも名誉にも全く興味はない」超一流の臨床医学教育者の教えを、日本全国の多くの臨床医が受けることが可能になったことを心から喜ぶとともに、訳者の皆さんの努力に対して深い敬意を表する。

医学生から、ベテランの医師まで、ウィリス先生のことを知らなかった人にも、ぜひ手にとってほしい書である。息の長いベストセラーになる本だと思う。